

研究計画書

西暦 2018年 12月 10日

三豊総合病院長 殿

申請者
所属 卒後臨床研修センター
職名 初期研修医
氏名 鄭芳毅 印

研究目的

近年救急外来にてCTやMRI検査をする機会が増えてきているが、画像診断施行後の読影結果の確認不足が問題となってきた。当院における乳腺腫瘍手術の診断経緯について検討した。

研究方法

カルテ情報をもとに、後ろ向き研究を行う。2015年1月1日から2017年12月31日までの間に行った乳腺腫瘍手術(182症例)において診断経緯について比較検討する。比較項目は、診断経緯、偶発発見の割合、診断に至ったモダリティである。

救急外来で施行されたCT検査にて偶発的に発見された乳腺腫瘍に関する検討
「実施計画書」

西暦 2018年 12月 10日

三豊総合病院長 殿

申請者
所属 卒後臨床研修センター
職名 初期研修医
氏名 鄭 芳毅 印

研究責任者 卒後臨床研修センター 鄭芳毅

研究分担者 外科 松本尚也

事務局 なし

計画書 第1版

作成日時 2018年 11月 22日

- ・ 研究目的

近年救急外来にて CT や MRI 検査をする機会が増えてきているが、画像診断施行後の読影結果の確認不足が問題となってきた。当院における乳腺腫瘍手術の診断経緯について検討した。

- ・ 研究方法

- 期間：2015年1月1日から2017年12月31日
- 対象：乳腺腫瘍手術
- デザイン：後ろ向き研究
- 例数とその根拠：外科にて施行された乳腺腫瘍手術(182例)
- 評価項目：診断経緯，偶発発見の割合，診断に至ったモダリティー
- 統計解析法：

- ・ 個人情報取り扱い方法：パスワードを設定したパソコンでのみデータを取り扱う。
- ・ 匿名化する場合の方法：データは研究責任者が連結不可能匿名化した上で使用する。
- ・ 情報の保管方法と保管期間：パスワードを設定したパソコンに保存し，投稿論文採用後，破棄予定である。
- ・ 利益相反：なし